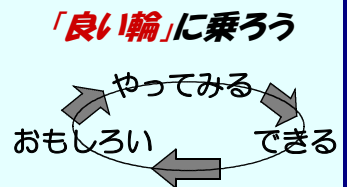




■ “良い輪”に乗ろう ～一歩踏み出す～ ■

3学期の始業式で、全校児童に「良い輪」に乗ろうという話をしました。計算が苦手、漢字が苦手、縄跳びが苦手…。誰でも苦手なこと、なかなかできないことがあります。そんなとき、「苦手だから」「いやだから」と避けていたのでは、いつまでたってもできるようになりません。「どうせやってもできない」と思わずに、どんな小さなことでもいいから「やってみる」ことが重要です。やってみてすぐにうまくいかなくても、やってみてわかることがあります。なぜうまくいかないのかを考えて、やり方を変えることもできます。逃げずにチャレンジし続けることにより、だんだんできるようになります。できるようになれば面白くなります。面白くなれば、またやってみようという気持ちになり、もっとできるようになり、ますます面白くなります。このような「良い輪」に乗れば、自分をどんどん成長させることができます。「やらない→できるようにならない→ますますつまらなくなる」という「悪い輪」ではなく、「良い輪」に乗って欲しいものです。

社会に出れば、自分がやりたいこと、できることだけやればいいのではなく、逆に、やりたくなくてもやらなければならないことの方がたくさんあります。困難に耐え、困難を乗り越える力を伸ばすためにも、「きっとできる」という自分の可能性を信じ、小さな一歩を踏み出す勇気をもって欲しいものです。



英会話授業研究会を実施しました



水戸市教育会英語教育研究部の授業研究会が本校を会場に行われ、集まった水戸市内の約50名の小中学校の先生やAETの方々には、1年1組と6年1組の英会話の授業を公開しました。

2020年に全面実施され、2018年に移行措置がスタートする新学習指導要領では、『小学校中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視すること』とされています。水戸市では、これに先駆けて、すでに小学校だけでなく幼稚園から外国語活動を実施していますが、内容や授業時間数は、国の方針に沿って進めていくこととなります。今回の授業研究会は、その方向性を確認し、指導や学習活動の在り方を考える重要なものでした。よって、多くの先生方の関心を集めたものと思われます。

1年1組の授業も、6年1組の授業も、“英語に親しむ”というレベルを超え、“英会話を楽しむ”というレベルに達し、1年生がすでに活発に会話をしていること、6年生がかなりハイレベルの英語を使って積極的に会話にチャレンジしていたこと等に、参観者の皆さんが感心していらっしゃいました。本校の先生方の熱心な取り組み、本校児童の良さを多くの方にご覧いただくことができ、また、今後の英会話授業の在り方の方向性をつかむことができた大変有意義な研究会になりました。



1 ATOPICS

★ 本校ホームページがリニューアルされました。ぜひご覧ください。
(<http://www.magokoro.ed.jp/jyoutou-e/>)

◆ 「すばなし」を実施 1/22(月)～

「すばなしの会みみずく」の方を話し手としてお迎えし、1年生から順に、朝の読書の時間に「おはなし会」を実施しています。読み聞かせではなく、話して聞かせる「すばなし」です。聞くことに集中する雰囲気づくりのために、小さなお花とキャンドルを置き、淡々と語ります。映像や音楽等の演出はありません。少々難しい言葉もあえて説明せず、お話は1回きりです。子どもたちは感性とイメージーションを働かせ、自分なりに物語の世界を理解します。脳の活性化に大きな効果があると考えます。



◆ 給食感謝集会 1/26(金)

全国学校給食週間に合わせ「給食感謝集会」を実施しました。給食委員長や調理員の方のお話、クイズやスライドにより、給食についての理解を深めました。本校では、3名の調理員さんにより毎日約300食の給食が作られています。安全・安心で栄養バランスのとれたおいしい給食を毎日間違いなく提供するために、並々ならぬ努力をしてくださっています。調理員さんはもちろん、自分たちの生活を陰に陽に支えてくださっている方々への感謝の思いをもつ良い機会となりました。



◆ 納豆パック贈呈・配付の取材 1/29(月)

前号でお知らせした「納豆パックデザインジュニア甲子園」の最優秀賞に選ばれた本校6年生の早瀬菫さんの作品が、シールになって納豆パックに貼られ、給食時に全校児童に配られました。その様子をテレビ局、ラジオ局、新聞社等が取材に来てくださいました。NHKでは同日、夕方の番組で、放映していただきました。本校児童からの応募が多く、その熱心な取り組みを評価していただいたものと思います。子供たちの活躍に光を当てていただけたことは大変喜ばしいことです。

